

第一部附置人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会

(第 25 期・第 1 回)

議事要旨

1. 開催日 令和 2 年 12 月 25 日 (金) 10 時 15 分～11 時 30 分
2. 場所 オンライン
3. 出席者 高村ゆかり、橋本伸也、溝端佐登史、小林傳司、日比谷潤子、吉田和彦、吉岡洋、西田眞也、松下佳代、佐藤嘉倫、若尾政希、小長谷有紀、和田肇、苅部直、岡崎哲二、西尾チヅル、佐野正博、隠岐さや香、神里達博

4. 議題

(1) 役員を選出

委員による互選の結果、委員長に溝端委員、副委員長に西田委員、幹事に苅部委員と隠岐委員が選任された。

(2) 新科学技術・イノベーション基本法体制下の人文・社会科学と第 6 期科学技術・イノベーション基本計画

小林委員より上記課題に関し、科学技術基本計画の策定と 2020 年の法改正、総合科学技術・イノベーション会議(CSTI)での議論の状況、経団連における議論、欧州における動向、第 6 期基本計画における論点(科学的助言機能、総合知、人材育成)などが説明された。学術会議第一部会員も、第 6 期科学技術・イノベーション基本計画のパブリック・コメントに参加する意義が強調された。重ねて、橋本委員より 2020 年 8 月 CSTI 有識者部会での町村第一部長による学術会議からの説明が参考資料として紹介された。

意見交換では、次の点が触れられた。CSTI における科学的助言機能に対する考え方、欧州の人文・社会科学に対する考え方(2013 年ビリニユス宣言)の有効性、総合知と人社の批判的見方の相関(対峙するのではなく両方が必要)、経済安全保障の重視と大学のあり方、人文・社会科学分野の中での世代間の意識ギャップ、歴史と社会予測の関係など。

分科会として、短期的課題と中・長期的課題を分けて議論すべきであり今後課題を精査すること、基本計画をフォローして必要になれば意見表明すること、基本計画へのパブリック・コメントが重要で学術会議第一部会員に周知すべきであることが確認された。